



栗田宏作品(部分)

特別展示
栗田宏 — 梅田恭子

砂丘館



〈觀覽無料〉



梅田恭子作品(部分)

砂丘館では何人もの作家から作品をお預かりしてきました。

それらを企画展の合間に砂丘館の常設展示ともいっべき「砂丘館セレクション」の一部として、また時には「特別展示」としてある程度まとめて展示してきました。

それなりの数の作品を預かっている作家もある。

栗田宏と梅田恭子である。

栗田宏は今年の8月23日に70歳で急逝した。この二人展は彼の存命中に構想し、二人にも伝えていたもので、やはり預かった作品から選んで展示する予定だった。

梅田恭子の場合は、ちょうど一年前に、これもまとまった点数でお預かりしている版画集「ツブノヒトツヒトツ」を展示したが、それと同じ時期にギャラリーみつけで開かれた展示に並んだ彼女の初期の版画を、その後砂丘館で数点預かることになった。

二人の作品は外見上の共通点もあり、砂丘館では作者名を書かずに最近では展示することが多いが、梅田の絵を栗田さんですか？と絵に興味のある人から聞かれることもあった。

とはいえ、二人のどちらかがどちらかに影響をうけたということは、まったく

そんな二人の絵を同時期に並べてみたいと思ったのは、去年の梅田の展示の直後だった。ギャラリーみつけの展示で、自分という穴をひたすら垂直に掘って、いこうとするような表現に、初期（1980年代）の栗田の絵の息詰まるような線の集積を思い出したからだ。

11月になって梅田から、雁皮紙に刷られた版画がくしゃくしゃに丸められたものが送られてきた。紙は破れていた。畳の上でそれを指で広げていると、深くなにかを感じてしまうために、その分だけ生きにくい人生を引き受けざるを得なかった、そして、描くことを通じて引き受けてきた二人の、皮膚にさわっている気がした。

（大倉宏、砂丘館館長）

栗田宏 くりたひろし

1952年白根市（現新潟市南区）生まれ。白根市役所に勤務し、在職中より絵を描き始める。その後、退職し絵に専念。「生成」「氣」「密」などのテーマで制作を続ける。84・85年現代画廊（東京）、2000・02・04・14・15・16年新潟絵屋、04・05・07・08・09・10年画廊 Full Moon、07年砂丘館、11年阿彌陀瀬（五泉市）にて個展。11年「栗田 点 華雪」13年「平野充・栗田宏」開催。89年「新潟の絵画100年展」新潟市美術館、00年「見えない境界変貌するアジアの美術 光州ビエンナーレ2000（アジアセクション）」日本巡回新潟展（新潟県民ギャラリー）出品など。2022年8月23日70歳で死去。

梅田恭子 うめたきょうこ

1971年東京都生まれ。1996年多摩美術大学大学院デザイン研究科修了。主に銅版画や鉛筆、油絵の具などを用いて絵を描いている。個展を中心に、新潟、東京、名古屋、大阪、神戸、山口などで作品展を開催。新潟では2000・01・03・04年楓画廊、10・12・14・17・22年新潟絵屋、16・21・22年砂丘館、22年ギャラリーみつけで個展を開催した。

特別展示 栗田 宏 | 梅田 恭子

2022年12月21日（水）～2023年1月22日（日）
9:00～21:00（2023年1月は19:00まで）

休館日／月曜日（1月9日は開館）、1月10日、12月28日～1月3日

主催：砂丘館 新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.025-222-2676

新潟駅万代口より浜浦町線C2系統 又は 観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分

砂丘館には駐車場がありません。周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。

指定管理者：新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



砂丘館



私たちは砂丘館を
応援しています

音 ありれ 株式会社

NSGグループ

新潟ビルサービス

丸 本 店

藤田金属

WIND

郷土の文化に親しむ会 片桐奈保美